



### 対談 井手康人氏×藤原智也氏

# 創作と美術教育のこれから

瀬戸内市在住の日本画家・井手康人さんの代表作を集めた特別展「神々の視座―井手康人―」が同市立美術館（同市牛窓町牛窓）で開かれている。インドネシア・バリの神々の世界を描き続けて四半世紀。独自の神秘的画風を確立し、日本美術院同人として画壇をリードしている。また、愛知県立芸術大教授として、愛知県立大の藤原智也准教授＝岡山市出身＝らとともに美術教育の研究・振興に努めている。2人に創作と美術教育のこれからをテーマに話を聞いた。（文中敬称略）

### 特別展「神々の視座―井手康人―」

1月15日まで、瀬戸内市立美術館  
井手康人さんがインドネシア・バリ島の踊り子の女性をモチーフに描いた代表作約50点を、島の祭具や民族衣装と併せて展示。1月5～9日は、ポストカードやカレンダーが入った図録福袋(4000円、1日20袋限定)を販売し、当たりの袋には井手さんの直筆画(はがきサイズ)の引換券を同封。また、来館者には抽選で3人に井手さんの直筆画(同)をプレゼントする。12月28日～1月4日と10日は休館。

### 関連ワークショップ・講座

#### 幾何学模様を使って花を描こう!

1月7日午後1～3時、牛窓町公民館  
日本画家・坂根輝美さんが葛飾北斎の絵の手引書「略画早指南」を解説する。その後、幾何学模様で花を表現し日本画材で装飾する。定員10人、参加費無料。

#### 洗濯バサミアート

1月15日午前10時半～正午、牛窓町公民館  
洗濯バサミをつなぎ合わせたり、並べたりして簡単に面白い造形に挑戦する。講師は、愛知県立大の藤原智也准教授が務める。定員25人、参加費無料。  
※いずれも要予約。前日までに電話(同美術館、0869-33130)などで申し込む。

### 「井手康人展～カミガミノアリア～」

1月2～10日、岡山天満屋5階美術画廊  
バリ島を取材した幻想的な人物画や風景画など20点余を展示。院展出品作「白傘蓋」「山乃神」も並ぶ。会期中無休。

### 院展岡山会場

1月2～15日、岡山天満屋6階葦川会館  
日本美術院同人をはじめ、主な入賞・入選者らの作品計58点を展示する。井手康人さんは大きなシーラカンスに座る女神などを描いた最新作「海乃神」を出品する。会期中無休。

### 日本の美術教育

お二人とも日本の美術教育に問題意識をお持ちです。井手 倉敷芸術科学大の広報担当として全国の高校を進学説明で回った際、とても悔しい思いをした。私立であることや教科入試でないことを理由によく話を聞いてもらえない。教育現場での美術整備を感じた。今の時代、多様なアイデアを組み合わせる新たなものを創造する力は非常に重要。米国ではアイヒリークに属するよう一流流大学は芸術について一定程度の見識がないと入れない。芸術課題の大学入試への採用を働き掛けたいと考えている。

## 創造能力育む授業必要

民がかかわる仕組みもない。高い密着性の中でつくられ、経済界からは「英語力と科学力の重視」と圧力がかかる。理数英の授業が増え、削られたのが音楽や美術だ。それが日本が良くなっているのならば、国民の幸福度は低く経済は沈滞している。米IT大手アップル創業者の故スティーブ・ジョブズ氏は大学時代デザインを専門に学んだ。創造能力を磨き、後に情報分野と融合させ巨大企業を生んだ。芸術に親しんだ情報分野のけん引者たは少なくないが、日本でこうした人材は育っていない。また、ホワイトカラーが担う頭脳労働はAI(人工知能)に取って代わられ始めている。創造能力を育み、今の暗記重視・規律訓練型の今の教育で、子どもたちは将来、職を得られるだろうか。どのような教育が望ましいか。

藤原 暗記力は生身の先生が扱う必要はない。遠隔授業をベースにした一部の学校で始まっているが、井の立つ教師の講義を好きな時に何度でも見られる動画コンテンツを活用すればよい。生身の授業で扱うべきは「コンテクスチュアルラーニング(文脈的学習)」。地域にフィールドワークに出て、情報を集めてまとめて発表する、といった答えが一つでない学び、AI的思考を持ったクリエイティブな教員が携わるのが有効だ。お二人を含むチームは、創造能力を育む教育プログラムの共同研究に取り組む。この展覧会でも研究に関する展示やワークショップを行っている。

井手 芸術実技の専門家と教育学が協業し子どもたちの実践力や発想力を育成するのが狙い。賛同者を探す中で藤原先生と出会い、理論の裏付けで大変力になってもらっている。

### 第1展示室 神々の視座



### 愛知県立大准教授 藤原智也氏



ふじわら・ともや 1984年、岡山市生まれ。2007年に岡山大学教育学部を卒業後、岡山県内の中学校教員(美術科)を経て、14年から愛知県立大。美術に関わる教育政策・文化政策とその実践について、社会科学や認知科学をもとに分析している。

### 日本美術院同人 井手康人氏



いで・やすと 1962年、北九州市生まれ。東京芸術大大学院博士課程満期退学。倉敷芸術科学大教授などを歴任し現在は同大客員教授、愛知県立芸術大教授。日本美術院賞(大観賞)を2度受賞し2014年同人。18年文部科学大臣賞。20年内閣総理大臣賞。

### 第2展示室 回帰



### バリを描く

「バリを描き始めてから四半世紀を過ぎ、初めての大規模な個展を開催。井手 先輩に誘われ初めてバリを訪れたのが1994年。自分の子どもを産んだことを機に思い出すような雰囲気があった。そこでは人々が身の回りに神の存在を意識し、祈ったり、守られたり、おそれたりしながら、心豊かに暮らしている。繰り返して通ううちに自分の体の中に入ってきたものを絵筆で表し、結集させたのが今回の個展だ。会場にはバリから運んだみこしやカヌーが置かれ、現地で祖先の霊とも解されるチョウも作品にいきなうように配置されている。井手 作品のテーマに沿った装飾を施すのは、以前、銀座の画廊で試みて、今回もぜひやってみてみたかった展示。作品の背景に広がる世界観を表したかった。音響設備を整えてもらって、音楽も流した。かろく聞いて聞けるくらい音量だが荘厳な調

## 神を意識 日本の原風景

「今回の展示を見て、あらためてどう感じるか。井手 「頑張っってよく描いているなあ」というのが正直な感想。構成の不備とか、若気の至りといった箇所は多々あるが、一生懸命さは伝わってくる。そもそも自分を日本画家と感じたことばなく、ただただ絵が好きでここまでできた。創作のスタートは「すごい、描きたい」という感動だと思っている。今の画壇を見渡すと、感動が薄れてきている気がする。

「今回の個展を今後どううつなけるか。井手 これからもバリを描くし、並行して日本を描こうと思っている。日本人の心に宿る自然信仰の象徴は富士山。1月2日に岡山天満屋で開催する私の展覧会では、富士山や那智の滝、岡山の醍醐桜をテーマにした作品も出品する。これら著名な場所以外にも、「神」を感じさせる対象はわれわれの周りにたくさんあると思う。意欲をもって題材を見つけたい。

### 世界の紙と日本の和紙

#### 歴史や製法、種類を解説

特別展の関連ワークショップ・講座「世界の紙と日本の和紙」が10日、瀬戸内市牛窓町牛窓の牛窓町公民館で開かれ、受講生約30人が紙の魅力や製法を学んだ。愛知県立芸術大の柴崎幸次教授(デザイン)が講師を務め、世界の紙の伝播やその歴史、日本の和紙の製法や特徴、種類などを解説した。実際に紙の見本カードも作った。



柴崎幸次氏(しばさき・こうじ) 1964年、京都市生まれ。愛知県立芸術大卒業、龍谷大大学院修了。99年、愛知県立芸術大講師となり、現在は同大教授。和紙に注目し世界で舞台に素材の開発・研究を行う。

### 継承されなかった文化財

#### 「破壊」の状況、要因考察

ワークショップ・講座「継承されなかった文化財―文化と科学から考える―」が17日、牛窓町公民館で開かれた。講師の愛知県立芸術大の阪野智啓准教授(日本画)が、多くの文化財が災害や戦争、あるいは「意図的な破壊」によって失われていることや、どのようなときに文化財が破壊されるのかなどについて話した。



阪野智啓氏(はんの・ともひろ) 1975年、名古屋市生まれ。愛知県立芸術大卒業、同大大学院美術研究科修了。2013年に同大講師、16年から准教授。日本画家で、古典絵画の技法復元研究と調査に取り組む。

# 神々の視座

### 第3展示室 夢を結ぶ



### 第4展示室 遺伝子

